



「力を合わせて働く」

Ⅱ テモテ四：1〜8

牧師 安藤 脩

今ほどのような時代ででしょうか。不安、苛立ち、怒り、先が見えないためその場しのぎの刹那的であり、失望の渦巻く時代です。戦争あり、経済危機で国の消滅の不安もある、終末を感じさせる時代です。だから、目先のことに心を奪われ、信仰を求める人はいない時代なのでしょう。そうではありません。だからこそ、信仰を求める人は多いのです。しかしその信仰は、自分に都合のよい信仰です。パウロが生きた時代も終末を覚える時代でした。「神の前で、そして、生きている者と死んだ者とを裁くために来られるキリスト・イエスの御前で、その出現と御国を思いつつ、厳かに命じます。」(Ⅰ)と、イエス・キリストの再臨の切迫を感じていました。

2012年秋号  
 日本キリスト教団  
 横浜岡村教会  
 〒235-0021  
 横浜市磯子区  
 岡村 4-25-39  
 TEL.045(751)3917  
 牧師  
 安藤 脩

めていたため、偽教師や偽教祖がはびこっていたのです。「人々は自分に都合の良いことを聞こうと、好き勝手に教師を寄せ集め、真理から耳を背け、作り話の方にそれて行くようになります。」(Ⅲ3〜4)とあるとおりです。

今の時代も良く似ています。だからこそ「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。とがめ、戒め、励ましなさい。忍耐強く、十分に教えるのです。」(Ⅰ2)と言うのです。

しかしかえって、健全な教え、キリストが躡きの石となることがあるのです。なぜなら、「とがめ、戒める」ゆえに。更に「試練を耐え忍ぶ人は幸い」「迫害する者のために祝福を祈れ」「敵を愛しなさい」と言う。したくないこと、自分に損と思えることを行えと言われる。だから、そんな信仰なんていやだ。それは理想論だと、躡く人は多いのです。パウロは単に、理想を言っているのでしょうか。

か。そうではありません。彼も迫害され、多くの試練に遭いました。でも、自分と共に歩いてくださるお方が居る。自分先立つて福音のために、苦しみを受けたイエス様に倣いたかったのです。

私たちの身近にも、母国を捨て、この日本の福音宣教のために、生涯を献げて下さった、見本があるのです。

パウロは「わたし自身は、世を去る時が近づきました。：信仰を守り抜きました。今や、義の栄冠を受けるばかりです。」(Ⅰ6〜8)と言います。彼は殉教の死が間近に迫っていることを感じていました。しかし、主と道を歩き通せた感謝が満ちています。約束された永遠の命・義の冠をいただけるとの信仰のゆえに、平安が満ちています。

ここにも、主と共に歩み、信仰のゆえに、「いつ主のもとに帰っても良い」と感謝と平安に満ちた高齢の方々が居ることを知っています。パウロ先生やラング先生夫妻、梅澤先生、世々の聖徒たちと同じ、証人になりたいです。また今、あなたの方々に居るのは同労者です。これらの方々と力を合わせて働き、福音宣教の道を歩みたい。 (創立記念礼拝で)

## 証し

(創立六三周年記念礼拝での証し)  
**横浜岡村教会での思い出**

大野 勝順

創立六三周年おめでとうございます。今日の記念礼拝に出席させて頂いた事を本当に心より感謝します。

岡村教会の初代主任牧師梅沢幸太郎先生は、私の家と同じ聖公会・月島教会の二階に住んでおりました。清水ヶ丘教会の倉持芳雄先生も同じ教会に通っておりました。私は、十五歳の時に伯父の所へ移る為、そこを出ました。その後、十七歳の時に両親が転居しました。その場所は、横浜の磯子区杉田で、当初は京浜急行だけで通える清水ヶ丘教会に行きました。その時両親は倉持先生に「大野さん達は、梅沢先生に仲人をして頂いたのだから岡村教会に行ったほうが良いですよ」と言われました。それで両親は岡村教会に転会しました。私は二十歳になって岡村教会に出席するようになりました。それまでは他の教会に行っていました。二三歳の時に教会学校の奉仕をさせて頂

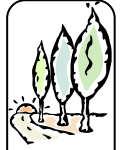
きました。毎週子供達が喜んで楽しみながら聖書を学び、福音が伝わるようにと祈り準備しました。夏期学校では十字架のある塔の三階で休んだ事を思い出します。寒い時期には、婦人会の方々がおいしい“おしるこ”を作ってください子供達とおいしく頂いたことを思い出します。青年会では依田さん、松田君、田崎君そのほか十名位で伊豆半島の“だるま山”に登った事、丹沢ホームの修養会に出席し、翌朝早く起きてシカを見に出掛けたことなど楽しい思い出の青年時代でした。昭和四五年に、横浜菊名教会の前任牧師の伊藤直巳先生より、奥様のご両親である岡村教会員の西島御夫妻を仲人にと妻となる板橋元子を紹介して頂きました。そしてその年、梅沢幸太郎牧師の司式のもと結婚式をさせて頂きました。昭和五十年には、役員に選ばれてしまつてどうしようと思いました。でも皆様の祈りがあり、私自身も祈り、神様に導きを頂き、奉仕出来た事を本当に感謝します。昭和五二年に父の状態が悪く(狭心症)急坂が無理になりました。また娘が白百合幼児学園に入園させて頂きました。この事

で、倉持先生に父の体の状態を話し、牧会されていた清水ヶ丘教会に家族全員で転会させて頂きました。岡村教会では暖かく、神様の家族として親しく交わり祈って頂きました。

現在も、バザー、お花見会、その他の集会で皆様に親しく声を掛けて頂きまして本当にうれしく感謝しています。色々話しましたことの一つ一つに神様の導きがあり、神様と岡村教会の方々の祈りがあつたからこそ、見守られて来たのだと感謝でいっぱいです。後になりましたが、私は二五歳の時に神様から聖霊のバプテスマを戴きました。本当にその時に、皆様の祈りによって戴いたのだと心より感謝しております。(清水ヶ丘教会員)



懐かしい3丁目教会の塔



## 私の歩んできた道

### 主に導かれて

河野 久美子  
夫も私も九州で生ま



れ、昭和二二年十月に祖父の妹の世話で見合い結婚し、大牟田に住んで居りました。昭和二七年五月東京に住んでいる姉を頼って上京しました。中央線の西荻窪の松庵一丁目に住むようになりました。「婦人の友」の本は、田舎にいる時から読んでおりました。家計が下手で困っておりましたので、婦人の友の家計をつけ通す同盟に入れていただきました。友の会にも入れていただきましたが、原田範子様が世話役で大変お世話になりました。私は福岡県立久留米高等女学校を卒業しました。戦局がだんだん激しくなり、充分勉強できませんでした。春は麦刈、秋は稲刈りに勤労奉仕に学校から行きました。物資がだんだん少なくなつて、家事のお料理の授業も節米の勉強で、あまり教えていただけませんでした。原田様が松庵最寄会のリーダーで、何も分からな

い私はいろいろ教えていただきました。最寄会は毎週木曜日午前十時から始まります。最初に讃美歌を十二〜三人の皆様と一諸に唄い、聖書か羽仁もと子集の本を読んで話し合います。そして、衣食住家計の勉強をして、来週の予定を決めまします。女学校時代勤労奉仕であまり勉強できませんでしたので、本当に助かり感謝して居ります。近所に矢吹タミエ様という立教女学院出身の方がおり、英語が上手で熱心なクリスチャンで、西荻窪教会に行つてらっしゃいました。その方の家で毎週日曜午後七時から、アメリカ人の若い牧師先生でロバートセীগと云う人が見えて英語の聖書研究会があり、夫も入れていただきました。最寄会に出席し数年過ぎた時、曙教会に行きませんかとさそわれましたので、夫に相談しましたら心よく許してくれました。子どもをつれて行くようになり、子どもも日曜学校に行くようになりました。しばらく経つて、手塚牧師先生にすすめられ洗礼を受けさせていただきました。昭和三四年クリスマスの日でした。手塚先生は、東京女子大学(吉祥寺)の聖書の先生でした。

「このころの貧しい人たちはさいわいで

ある、天国は彼らのものである」

「あなたがた貧しい人たちはさいわいだ。神の国はあなたがたのものである」  
ルカ六章 20 節

今、しみじみと神様が私にあたえて下さったみ言葉をかみしめ、有難く感謝致して居ります。



### あなたの信仰があなたを救ったのです

池田 久子

終戦後、金沢八景の六浦に有った兵舎が戦災者用住宅として使われていました。そこに、私と父、母、姉、復員した兄と共に住んでいました。当時、私は桜木町駅の近くにあった県の民生部保険課に和文タイピストとして働いていました。私は引つ込み思案で、そのうえ上がり症でそういう自分にいつも不満でした。自分の仕事が無く、庶務の仕事を手伝っていた時「貴女は席を立つ時、いつもため息をつくわね」と同僚から言われ、自分では気がついていない事だったのでビックリしたことを覚えています。その頃、兄が理髪店を開くということで西根岸上町

に家族で引越して来ました。そこで、ある日の夕方、根岸橋教会の路傍伝道で、近くに教会があることを知り、行ってみました。そこに信仰の先輩の杉山姉や佐伯姉がおられました。昭和二八年三月二十九日、イエス様を信じ梅沢幸太郎牧師より洗礼を受けて戴きました。神様の子供にされたその喜びは、毎日が感謝でした。その後、職場が県庁の四階に引越したのですが、ある日、屋上に行きますと、当時カマボコ兵舎と呼んでいた建物の中から賛美歌が聞こえました。下に降りて行き覗いて見ますと、一人の方が聖書のお話をしておられる七人位の集まりでした。お入りくださいと声を掛けてくださいましたので、参加いたしました。その後、同僚の方三名も参加するようになりまし。その時、歓迎会をして下さり、出された料理のピラフが今も忘れられません。後でその集会は本牧教会のメンバーが中心になって持たれていた聖書研究会だとわかりました。こうして様々な出会いが重なり、私の信仰が導かれたことを感謝しております。



## 第十五回 岡村「春のランチョン」によせて

マリア会 今給黎 美代子

六月九日(土)、カレブの会・マリア会共催の「春のランチョン」を、講師に、盲目のシンガーソングライターの大和田宏美さんをお迎えして開催しました。雨の中、多くの方が、コンサートに集って下さいまして、感謝な時を持つことができました。

第一部の、讚美と証のコンサートでは、大和田さんの魂の歌声と、ご自身の生き方を証されて、多くの方に、感動と勇気を与えて下さいました。一歳九カ月で麻疹にかかり失明された大和田さんは、小学校三年生の時、神様に会われてから、今日まで沢山の讚美歌を作詞、作曲されました。各地の教会や、地域の小、中学校等の演奏活動を通じて、神様の器として用いられ、ご奉仕をされています。私たちは誰もが弱い存在です。人生の全ての問題の中に、主のみ業を拝して、与えられた使命を全うするため、歩む者とされたいと思いました。第二部は、愛餐の交わりです。教会員手作りの自慢料理がテーブルに溢れるばかりに並べられて、

コンサートにおいて下さいました方々との、心豊かな交わりの時となりました。初めて教会に来られた方、現在求道中の方々が、「春のランチョン」を通して、主からの慰めと励ましを頂いて心が癒され、全ての思い悩みから解放され、御救いに預かって、希望と感謝の人生を送られますようにお祈り致します。今後、私たちは、主から託された伝道の努めを、聖霊の導きによって、御言葉から確信を頂いて、真摯に祈りを積みつつ、前進して行きたいと思えます。

「そればかりでなく、苦難をも誇ります。わたしたちは知っていますのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。」  
(ローマの信徒への手紙五章三〜五節)



お料理の数々

七月十六日(月)

### 三教会合同修養会が

### 開かれました

(横浜菊名教会・清水ヶ丘教会・横浜岡村教会)

講師

松戸教会牧師

石井錦一師

#### 参加者の声



信徒はちゃんと教会を守って行く  
思いをしつかり持つて行くべき。

中学生になったら大人の礼拝に出席することによって、教会員へと繋がっていく。神の前に礼拝を捧げる喜びに満たされている事、病んでいる人のためには、ただ「よりそうこと」が大切。



初めての参加です。会場の横浜菊名教会、心のこもった配慮がされ、

私達を迎えてくれました。講師の石井錦一牧師。最初はラング師に反感を持っていたが、今は確かにラング師の信仰の教えを大切に歩まれていた。私達の働きは種まき。結果は見れなくてもよい。今、キリストにあつて喜んでる事が大切。



ラング宣教師が日本に来られ、いろいろな伝道を試みて下さいました。その伝道によって、三教会の交わり、ラング記念聖書学校へと繋がっています。聖書の中に生き続けると言う師の教えに心をとめ、信仰生活を守り続けたく思います。



石井先生の沢山の興味深いお話の中で一番印象に残ったのは「信徒は小さな牧師である」と言う言葉でした。色々な意味があるでしょうが、信徒も自立して外に向かって伝道せよという事でしょうか。受身の姿勢ばかりの私にとつて、新たな視点を与えられた思いです。



分団では、牧師の説教が第一で、そこから力を得て、信徒が状況に応じて伝道することが一番大切ではないかと言う話ができました。又高齢者社会に伴い、老人伝道が有効である事。精神的病に陥っている人を救う事など、これからの伝道の行くべき道を学ぶことが出来ました。



歴史に残らない教団の混乱期が四十年も続いていた事に驚きました。これからの日本の伝道が何処に向かって働いていかなければならないかは、祈りと聖霊の導きにあると思います。そして、生活で多くの人と関わりを持つ中で伝道を自分なりに実践して行きたいと思いました。



石井牧師の講演。又、分団での話し合いから、これからの伝道について学ばせて頂きました。教会にいらつしやうした方に接する時、先ずその方が話しやすい雰囲気を作ることが大切。それには、まず私自身が御言葉によって心の豊かな者として頂く事が、大切だと思いました。



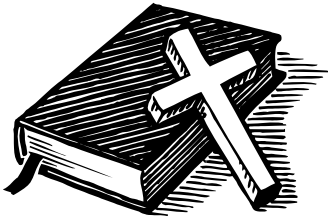
三教会合同修養会に於いて、石井錦一牧師は、ラング宣教師の伝道生活から、現代社会への福音宣教を、どの様に適応するべきか、又信徒は家庭の牧師であり、聖日には、御救いを願っている人の名前を書いて、共に礼拝を守り、身も体も投げ打つて行くべきであると、心に深く教えて頂きました。



上期の「ラング記念聖書学校」は、体調不良で欠席しましたが、「三教会合同修養会」に出席出来、感謝しています。石井牧師より「ラング師の教えは聖書と教会を第一とする事」であったと聞き、心に留めました。又今、教会員の減少を如何するか？が問題ですが、ラング師は例え中途半端であっても何でも積極的に多様なルーツを用いて行っていたと、言われました。牧師だけでなく、信徒の働きが重要であると説かれ、重い一発でした。



ミッションスクールは今は、校長も先生もクリスチャンでなく、生徒になかなか伝道出来ないが、今はそれを反省して、原点に戻りつつあるという事で、感謝しました。ラング宣教師の「伝道・聖書が大切、聖書に生きる事が大切。」に教えられました。聖書の御言葉に忠実に従い歩んだラング師の伝道に感銘を受けました。



今回の修養会は、とっても良い学びと交わりの時でした。特に、ラング先生の頑ななまでの聖書信仰と、パウロのようにどのような手段を使っても福音を伝えるという姿勢です。教会に作業所を作り、多くの方をお招きしたいという取り組みの原点がそのあるのだという確認をする事が出来ました。



聖書に基づいた祈り。キリスト者としての生き方。聖霊の働きによる救いが大切な事。青年部の伝道がスムーズに行かないが、老人伝道ならば集まるのではないかと、言われました。石井錦一先生とラング宣教師との関わりについての興味深いお話が良かったです。



「♪主から受けたすべてを、ふたたび主にささげて、清き御名をほめつつ、こころを高くあげよう」この賛美に励まされました。ラング宣教師の日本人々に対する愛の心を無駄にせず、私は残されている限り、伝道に励みたいと思います。



戸波先生の「三本の矢が一本となり、その矢が真つ直ぐに放たれて、的にささる」とのメッセージが心に刺さりました。まず聖書をよく読むこと。聖書の言葉が射て語られる時、そこから神の業が始まる。三教会が共に祈りあう事が大切だと思いました。



横浜菊名教会の中庭で



ＪＣ夏季キャンプの恵み

八月三日（金）～五日（日）。今年は初めて教会でキャンプが行われました。一階のホールが宿泊場になり、思いで深いキャンプとなりました。「新しい命」と題して、イエス様の十字架の赦しを真っ直ぐに学びました。「せんたくの歌」もすぐ覚えて、元気に歌いました。安藤牧師から安全なナイフの使い方を知り、竹を使って自分の箸を作りました。二日目のお昼はカレブ会主催のバーベキュー。その後には稲葉さんご夫妻による腹話術と手品の時間！とっても楽しかったです！またまたその後には新さんによるアイスクリーム作り！自分で作ったアイスクリームがおいしかったよ。盛りだくさんのプログラムが一杯でした。堀内さんからハンバーグの差し入れもあり、沢山の方々に支えられてのキャンプでした。

(Aスタッフ)



はしを作っています



楽しい食事の時間

腹話術、手品  
とても楽しかったです



聖書のおはなしの時間



みんなでバーベキュー

9～11月行事予定

9月

- 11日 三教会交流委員会(横浜岡村)
- 16日 敬老祝福礼拝・感謝会
- 17～19日 関東アシラム(箱根)
- 22日 故井上角治・瑞子夫妻納骨式
- 25日 田崎宅家庭集会
- 28日 藤山宅祈祷会
- 30日 信徒研修会

毎週金曜日(7日)ラング記念聖書学校

10月

- 7～8日 三教会青年交流会
- 9日 教区伝道協議会(清水ヶ丘)
- 12日 共催婦人会講演会(指路)
- 16日 田崎宅家庭集会
- 20～21日 秋の特別集会(石井錦一師)
- 24日 三教会統一祈祷課題祈祷会
- 26日 藤山宅祈祷会
- 28日 教区音楽祭(明治学院チャペル)

11月

- 4日 召天者記念礼拝・偲ぶ会
  - 10日 岡村バザー
  - 11日 こども祝福礼拝
  - 13日 三教会交流委員会
  - 20日 田崎宅家庭集会
  - 25日 収穫感謝日礼拝
  - 30日 藤山宅祈祷会
- (毎月第1主日 聖餐式、役員会)  
(毎月第4主日 各会の定例会)



JCの窓  
(ジュニアチャーチ)

「キャンプはたのしい」  
四年 田原 寧々

キャンプは友達がた  
くさん出来ていいなあ

ーと私は思います。私は、せんとくの歌  
が好きになりました。せんとくの歌は、  
(早くていやだなあー分らないし) と  
最初はおもってました。でも、だんだ  
ん楽しくなって、大好きになりました。  
とくに、かがやく色のところが好きにな  
りました。あと、アイス作りも楽しかっ  
たです。私は、アイスがもり上がったと  
ころが、おいしそうで、早くたべたくな



かがやくいろは  
てんたんのいろ  
かみさまのいるところ  
よろこびとさんびが  
あふれているところ

りました。教会のキャンプは、たのしい  
です。来年が楽しみです。

集会案内

○秋の特別集会

10月20日(土)～21日(日)

講師・石井錦一牧師

ぜひ、おいで下さい。

○召天者記念礼拝 11月4日(日)

天に召された方々を偲んでの  
礼拝です。愛餐会があります。

お出かけください。

○こども祝福礼拝 11月11日(日)

大人と子どもの合同礼拝です。

礼拝の中で、子供の祝福式があり  
ます。祝福を希望される方は、

お申込み下さい。



編集後記

先日、いわき市で牧会している若い牧  
師夫婦の結婚祝い会に出席してきました。  
彼はまだいわきに行つて一年半なので  
が、七〇名程の方々がお祝いに駆けつけ  
ていました。皆震災にあわれた方々です  
が、そこには一つになろうとする大きな  
結束力がありました。大切なものを頂い  
て帰ってきました。「岡村の泉」秋号も  
期日、滑り込みセーフ。  
(Y・A)